

駿東郡長泉町は、県の東部、伊豆半島の基部に位置し、北に霊峰富士を配し、東に箱根連山を眺め、町の中央には黄瀬川が流れるなど、美しい自然に囲まれており、町民の皆さんは、この恵まれた環境の中でいきいきと諸活動を勢力的に取り組んでおられます。

その中でシニアクラブ長泉(会長:八田 稔さん)1,137名(26単位クラブ)の皆さんは、健康活動・教養向上研修・友愛訪問活動・社会奉仕活動・サークル活動と、県内でも見本となる活発な活動を展開しています。

インターネットの普及等社会環境の変化に伴い、自分たちでサークルを立ち上げ健康講座の情報を得て趣味、仲間づくりを行っていたり、地域とのかかわりあいを煩わしいと考えている人が少なくはないと思います。このような状況下で全国シニアクラブの会員数が年々全国的に減少しているのも事実であります。

この状況を打破しようと、長泉町では各シニアクラブ連合会間で情報交換会を開くなどして、右肩上がりに会員数を伸ばし、多くの高齢者が健康で健全な活動を進めていく場づくりとして老人クラブ(シニアクラブ)会員の掘り起こしに取り組んでいます。

本日は、山梨県甲府盆地の東部に位置し、桃、ぶどうなどの果実を盛んに出荷している山梨市から山梨市老人クラブ連合会役員の皆様がお越しくださり「山梨市老人クラブ連合会・シニアクラブ長泉情報交換会」を行いました。



2-1

2-2

情報交換会会場は、富士山を仰ぎ黄瀬川を目の前にした長泉町在宅福祉総合センター「いずみの郷」3階集会室です。



3-2

情報交換会の冒頭、長泉町社会福祉協議会 渡邊事務局長より長泉町の概要が、山梨県山梨市老人クラブ連合会事務局から山梨市の概要が説明されました。



4-1
左写真→シニアクラブ長泉(長泉老人クラブ連合会)会長の八田 稔さん
4-2
右写真→山梨市老人クラブ連合会長の伊藤 厚さん

活動を活発にすすめている八田会長(会長歴 6年)も、平成16年ごろから老人クラブの会員が減少傾向にあるのを危惧しており、その要因を解析しておりました。1つ目→新規加入者が少なくクラブの新陳代謝が起きず、老人クラブの高齢化が顕著。2つ目→行政サービス等の充実(高齢者対象の生涯学習など)から選択分野の広がりや各個人の趣味やボランティアの多様化などから活動への魅力が薄れてきたと解析されています。

これらのことを踏まえ、シニアクラブ長泉の施策として①イメージ改革の5項目、②休会クラブ復活に向けた取り組み、③会員増強に資する単位クラブの取り組みに重点を置き、この3つの取り組みを通じ、シニアクラブの有効性(地域との連帯)が地域に根付けば、自然と問題解決の方向に向かうとしています。



5-1
写真は、山梨市老人クラブ連合会役員の皆さんと、シニアクラブ長泉役員の皆さん

情報交換会という研修会に参加された皆さんご苦労さまでした。社会環境の変化や個人の趣味の多様化等によって、老人クラブ創設当初に見られた組織形成が時代とともに難しくなっており、老人会役員の皆様方のご苦労は並々ならぬものと思います。

だからこそ、このような研修会(情報交換)を地道に重ね高齢者個々人がシニアクラブのうれしさ、必要性を見つけ出していくことが重要であり、求められているのではないのでしょうか？ 高齢者がいま一番望んでいることは、健康な体で自立した日々を幸せに送ることではないのでしょうか？ 健康寿命を延ばしいつまでも仲間と語り合い、元気で行動できることを願う。そのために自分の身はどこに置いたらよいかを常に考えていると思います。

今後、老人クラブに入会し、会活動によって個人の健康寿命が延伸され、元気な高齢者が見える化することにより自分にうれしさを感じてくる人が増えてくる、そんなクラブを誰もが望んでいるのではないのでしょうか。

解決策は非常に難しいと思いますが、地道に情報交換を重ね、地域・行政・老人会が一体となった実のある施策を期待しております。

取材：沼津・北駿地区担当 生きがい特派員 渡邊英機